

中間のまとめ（案）

平成26年度からの本計画も3度目の評価を迎えた。平成30年度からは次期計画である第4次計画の策定作業が始まる。これまでの第3次計画の評価を通じて明らかになった、事業や評価方法等に関する課題を下記のとおり整理し、それらを踏まえたうえで第4次計画が策定されるよう期待したい。

1. 計画と評価の関係について

第3次計画の評価については、平成26年度に委員会において評価方法の検討を行い、総評、重点課題別評価、事業別評価という形で評価を行ってきた。事業別評価については、担当課による事業評価に対し委員会が評価を行い、評価理由を付して各担当課にフィードバックすることで各担当課がそれを次年度の課題として活かし、最終的に計画に沿って市の施策が推進されることを目的として行ってきた。評価が、事業の進捗状況を確認するためだけのものではなく、担当課と委員会のコミュニケーションの場でもあるという思いもあり、このような手法をとってきたところである。

委員会による評価がより各課の事業に活かされ、第4次計画が実効性のある計画となるために、さらに両者のコミュニケーションの強化が図られるよう、工夫していただきたい。

計画は策定後の進行管理が重要であり、第3次計画にも進行管理について記載されているが、進行管理の基本的な方向性については、第4次計画の策定段階から十分検討されたい。

2. 評価項目の見直しについて

評価項目の中には、毎年の評価項目として適当かどうか、検討を要すると思われる項目がある。例えば一人しかいない委員の男女比や、役職等によって選任される委員会の委員の男女比について評価を行うことなどである。このような項目については評価項目を見直すことや、毎年評価を行うのではなく委員の任期ごとに評価を行うなどの変更について、検討されたい。

また1任期限りの、時限的に設置された協議会の委員の男女比についての評価についても、任用後に評価を行っても改善を図ることが来ないので、同様に見直しを検討されたい。

3. 検討段階の事業に対する評価について

計画の策定時から検討段階のまま変わらない事業があるが、5年という計画期間で実施の見込みが少ない事業については、課題として計画には記載しつつも、毎年評価を実施する必要はあるかどうかについては、検討する必要があると思われる。

（以下に、3年間の重要課題別評価と、事業別評価の一覧表を掲載し、コメントを記載します）